

思うがままに ⑤

### 今年の活動計画

和田 明

一・二月は、雪山を写したく思っています。蔵王・八甲田山が残っています。いずれかを汽車の旅で実現しないと残りがありません。地元では、宝来山・野地峯に出向きます。今年も、月三回の登山を實行したいと思ひ、登山装備は、車に乗っています。五月は、東京に出向き、富士山の展望台として人気の山「高川山」に行きます。六月は、第57回全日本登山大会「おこしやす京のやま」に参加しようと思っています。十二月は、幡多の



北岳山頂から

望年会に参加させてもらい、平野ミチの酒場に寄り、鬼ヶ城に登り、幡多路を走ります。勝手なことを綴りましたがお許し下さい。

## 先達の教えから 点と光

飯田 清久

4

浜松と高知の往復生活も5年目が終わろうとしています。その間、何人かの高知の知人が浜松を訪れてくれました。その中のひとり、わが高退協会員の井上芳史さんと、浜松市内の視覚障害者就労支援事業所を回ったことがあります。そこで浜松の点字にまつわるエピソードを知ることができました。そのひとつ、6つの点で構成される点字の日本語版を考案したのが、浜松出身の石川倉治という人であったこと。さらに、1926年1月に衆議院議員選挙施行令が公布され、点字投票が認められ、世界で初めて点字投票が実施されたのが同年9月の浜松市議会議員選挙であったことを知りました。育った身近な地域にもたくさんの方々の民主主義の財産があることをあらためて認識したことです。

最近商業イベントで「未体験ゾーン」「異次元空間」などのうたい文句を目にします。そこで思い出した体験があります。盲学校の修学旅行で行った「ダイヤログ・イン・ザ・ダーク」(東京)の異空間体験を紹介いたします。以前マスコミでも取り上げられたのでご存知の方もいると思います。そこは照度ゼロの世界を体験する施設。照度ゼロになったく光のない世界とはどんな感

じか、文字どおり真っ暗で目を閉じても開けていても違いを感じない真っ暗闇の状態、目の前にあるものも気配すらわからない世界。全盲のスタッフの声かけで、7、8人がグループになり90分ほどかけて会場内を移動します。場内は坂道や階段はもちろん、川の流れの音を聞きながら橋もわたりました。途中、粘土細工をしたり絵をかいいたりします。また、喫茶店に入りそれぞれが飲み物とスイーツを注文、みんなでお茶タイム。先を行く人の動きが伝わらなくなるさまに孤立・孤独。こんな世界でなにより頼りになったのが、一緒に行動するグループのメンバーの声かけと、手を伸ばせば触れられる人の背中でした。人のひと声の心強さ、先を行く人の背中への安心感を感じることができました。真っ暗な中を歩くだけのイベントですが、人間の情報取得の70%ともいわれる視覚情報が無い世界。体験してみると新しい発見がいろいろあるゾーンでした。そんな体験と重ね合わせながら手にした本を紹介いたします。



森田美佐(高知大学准教授)さんの講演  
「ゆびさきの宇宙 福島智・盲

ろうを生きて」(生井久美子著 岩波現代文庫)。「無音漆黒の世界でただ一人、果てしない宇宙に放り出されたような孤独と不安」(前著)を超える原動力となったのが指点字でした。のちに東大教授になった人のドキュメンタリーです。機会があったらご一読を。

### はたらく女性の交流集会から

別役 美佐

11月23日、高知城ホール4階はフルートとピアノの音色に包まれました。プログラムは最初に文化行事を組み込み、和やかな雰囲気が始まるのは、「はたらく女性の交流集会」でした。「20年の世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数では、日本は114位(144か国中)です。」という筒井典子(事務局長)さんの第一声に始まり、安倍政権が進める「働き方改革」への怒り、高知県は最低賃金が、10月にやっと737円。しかし、これは最下位のDランク。Aランクの東京(958円)との格差がますます広がっている。しかし、このような情勢だからこそ、労働時間の規制、保育・社会保険制度の拡充、教育費の無償化など、職場・地域で女性が安心して働き続けるために、共同の輪を大きくしていくことへの必要性が訴えられました。

引き続き、「だれもが働きやすい職場を！」—高知の働く女性は本当に幸せ？—と題して森田美佐(高知大学准教授)さんの講演がありました。

高知県は、共働きが多く、家事と仕事時間の男女差が、53分という全国でも突出した女性の働き方であり、非正規の人が多い。また、男性と比べても余暇時間が少なく、家族の支援が少なく、福井・石川・山形等は、3世代同居世帯が多く、家族の支援もあり、女性の就職率が低い。東北や北陸と高知県では「共働き」と言ってもその

### 高校再編振興計画「後期実施計画」策定へ地域会が始まる

高教組委員長 竹島久美

二〇一四年度から一〇年間における高知県内の高校の在り方と再編の方向性を示す再編振興計画が、二〇一四年一〇月に策定され、その前期計画が実施されています。計画では、小規模校をできるだけ残す方向で条件が示された一方、前期実施計画では、西高と南中高の統合、須崎高と須崎工業高の統合が決定されました。西と南の統合校(校名には国際パカローアコーストというのを置くことになり、莫大なお金が投入されています。二〇一八年四月には高知国際中学が開校します。

現在、後期実施計画策定に向けて、県内五地域で意見聴取のための教育委員会協議会が開催されています。十一月から十二月にかけて、安芸市、南国市、高知市で会がもたれ、一月には四万十町(高吾地域)、四万十市(幡多地域)で開かれます。前期計画からの継続(6面に続く)

現状に多いに差があるという報告でした。また、全国レベルで見ると、女性が活躍する企業は業績も良く、男性が育児休業をとる環境では、会社にメリットがあった事例が話されました。「女性の活躍・女性が輝く」と言っても、経済のための活躍論に巻き込まれてはいけない(新自由主義的・母性)。これからは、男性女性を問わず、ワーク・ライフ・バランスの考え直しの必要性があり、ワーク・ライフ・シナジー、ワーク・シェアリングについて考えていくことが大切であると提案されました。「参画」と言うのは、ともに「参加」し「ともに担う」ということである。言える人が言える所と言う。という講師の言葉に頷きながらの会合でした。参加者は、70名でした。

- \*ワーク・ライフ・バランス
- \*ワーク・ライフ・シナジー
- 生活と仕事の相乗効果・相互作用
- \*ワーク・シェアリング
- 仕事の分かちあい